



親方 望月楽人さん

百 八燈行事には小学生の頃から毎年参加してきました。ずっとかっこいい親方の背中を見てきて、今年は自分の番なんだと。コロナ禍の中で「行事を行うのはどうなの」という声もあったかもしれないけど、どうしてもやりたかった。そして、やるからには中途半端ではなく全力で。

保存会の大人のかたたちが、開催に向けて動いてくれて、こうして親方として伝統を次につなぐことができたことに、本当に感謝しかありません。

そして、次親方や若衆組・子供組のみなには先代や自分を超える伝統行事を作って欲しいです。高校最後の夏に、こんな貴重な経験ができて良かった。この経験を次に生かしていきたいです。

次 親方として、とにかく親方の負担を軽くしようと、サポートに力をいれました。親方は最後の年なので、それに、来年は自分が親方としてみんなをまとめながら行事を行っていくので、少しでも親方の仕事を覚えておかないといけないので。大変だったのは、小さい子たちの指導です。どうしたら思うように行動してくれるのか分からないんです。自分も同じ歳のころがあったのに。

子供組のみなには、今はうまく笛の音がでなかったり、太鼓がリズムよくたたけなくても続けて欲しいです。やっていくうちに自然と笛の音も出るようになるし、太鼓もたてるようになるから。

来年、親方として1つ1つの作法や決まり事をしっかりやって、今年の親方を超える百八燈行事にしたいです。



猪俣の百八燈 保存会長 保内正明さん

楽 人に親方を経験させてあげたいという気持ちと、できる努力をしないで中止の決定はしたくないという思いで、準備を進めてきました。

毎年行事が行えるのも、この猪俣に住む地域のかたや関係者のかたがたの協力のおかげです。子どもたちだけでは、どうしてもできないことは、周りの大人たちのサポートが必要になります。

この百八燈行事は、子どもたちだけでなく、行事に関わっていただいている大人たちの交流の場でもあります。長年受け継がれているこの百八燈行事や、今ある地域の集まりやイベントを大切にして、地域の活性化に少しでも貢献できればと思っています。

そして、行事に参加している子どもたちには、ご先祖様と地元を大切に思い、なにより優しい気持ちの人間になって欲しいです。



本番 寄せ太鼓

令和2年8月15日夕刻、高台院に徐々に集まる関係者たち。まだ暑い中、汗をぬぐいながら練習した太鼓や笛の披露まで緊張した表情で待つ子どもたち。

いよいよ、寄せ太鼓の披露の時間。練習のどの時よりも大きな声での挨拶。力強い太鼓と笛の音。みんなで響かせた音が、その場にいる人たちを魅了します。

点火

寄せ太鼓が終わる頃には、空が暗闇に変わり、いよいよ百八燈行事の本番です。

猪俣氏の霊に拝礼後、笛・太鼓の拍子に合わせ提灯行列が塚のある堂前山へと向かいます。頂上にある特に大きな塚に火が灯されたのち、百八の塚に次々に火が灯されます。百八のともし火が尾根に沿って帯のように長く燃え上がり幻想的な光景が広がりました。



親方・次親方

親方 参加する子どもの中で、年齢が一番上の子が務め、行事の指導・監督を行います。

次親方 親方の次に年齢が上の子が務め、親方と一緒に行事の取りまとめを行います。

テレビ放送 決定

猪俣の百八燈
9月13日(日) 午後8時
放送局 地上デジタル3ch

今年の「猪俣の百八燈」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、猪俣地区と保存会の皆さんで話し合い、規模を縮小して関係者のみでの開催となりました。

そんな中、今年はテレビ埼玉が撮影に入り、お祭りだけでなく、あまり知られていない子どもたちの練習や準備の風景、行事を陰から支える保存会のかたがたへの取材などを含めた1時間番組が放送されることになりました。

今年の「猪俣の百八燈」は、「広報みさと」と「テレビ埼玉」でお楽しみください。

